女子達の屈辱、教室で全裸身体測定

その日の放課後、H高校の教室は普段とは異なる緊張感に包まれていた。今日は特別な身体測定が行われる日だった。通常の測定ではなく、プールの授業で使用する水着の採寸のため、全裸でのスリーサイズ測定が先生から指示された。

先生が「全員、制服を脱いでスリーサイズを測定します。水着のサイズを正確にするためです。男子は測らなくていいです。女子全

員を測ります。」と宣言した瞬間、教室内はざわめきに包まれた。男子たちの一部は興奮を隠せずにガッツポーズを取った。

先生は続けて、「一人一人脱ぐと時間かかるから、女子は全員一度に脱いで教室の前に並べ」と指示した。女子たちは驚愕し、抗議の声を上げ始めた。

沙織が「何！？そんなの絶対無理！」と強い口調で反発すると、利奈も「信じられない…」と小さく言いながらも、顔を青ざめさせた。沙耶は「男子達見ないで！」と泣き叫び、美里は「嫌だ…」と涙を流し始めた。沙雪未は、「見たけ

りゃ見なさいよ。こんなの、なんでもない」と強気に言い放ったが、内心では羞恥心で震えていた。

しかし、先生は厳しい声で「黙れ！教師の指示に従え！」と一喝し、女子たちの抗議を黙らせる。

「男子達、おちんちん大きくなるのは仕方がないが、出したり触ったりしないように」と先生が注意したものの、男子の一部は既に興奮を隠せず、ズボンの中でおちんちんが大きくなっていくのを見て、さすり始めていた。ズボンの中でおちんちんがもっこりし、それがピク

ピクと動く様子がわかるほどだった。

まず最初に脱ぎ出したのは、沙織だった。彼女は震える手で制服のボタンを外し始めた。ボタンがぱちぱちと外れる音が静寂を破り、彼女の心は羞恥でいっぱいだった。ブラウスを脱ぐと、白いブラジャーが露わになり、男子たちの視線が釘付けになった。